

令和5年度「みえの防災大賞」、「みえの防災特別賞」、「みえの防災奨励賞」

選考理由

「みえの防災大賞」1団体

【玉城町・ボランティア団体】玉城町防災ボランティア

令和4年度「みえの防災特別賞」受賞団体

令和3年度「みえの防災奨励賞」受賞団体

玉城町防災ボランティアは、東日本大震災や紀伊半島大水害への被災地支援をきっかけに玉城町でも災害ボランティアが必要との声があがり、平成23年に組織を結成しました。結成後、行政と連携した防災訓練や地元小学校での防災体験教室、住民を対象とした防災キャンプ、自主防災組織とともに行うタウンウォッチングなど、自発的に防災・減災に関わる活動の実施を続けています。また、平成29年10月に発生した台風21号による災害では、災害ボランティアセンターを支援し、ボランティア活動を行いました。

令和元年度には他の地域の活動も参考にすることで、令和2年度に玉城町版HUG（避難所運営ゲーム）を製作し、普及を進めています。また、子どもから高齢者まで理解できる避難所行動マニュアルや玉城町在住の外国人に避難所について理解してもらうためのマニュアルといった、災害時に活用できる7つのマニュアルを作成しました。

結成後、長きにわたり防災ボランティア活動のみならず、子どもを含め地域住民の防災意識向上に大きく貢献しており、玉城町版HUGや災害時のマニュアル作成など独自の取組を行っている点、地元小中学校での防災体験教室などの取組を継続して実施している点、町と連携し各小学校区別の避難所運営マニュアルを作成している点は、他地域でも参考となるものです。

また、令和3年度に「みえの防災奨励賞」、令和4年度に「みえの防災特別賞」を受賞し、受賞後も持続性のある防災活動を展開し、常に高い防災意識を持ち合わせ、今後も地域において、町の防災リーダー的存在として防災活動に取り組まれることが大いに期待されます。

「みえの防災特別賞」 1 団体

【四日市市・学校】三重県立北星高等学校と富田地区連合自主防災隊

令和4年度「みえの防災奨励賞」受賞団体

三重県立北星高等学校と富田地区連合自主防災隊は、約10年間、毎年9月頃に合同で防災学習を実施してきました。

コロナ禍の令和3年度には、地震防災の有識者からのヒアリング等を行い、校外の高台である北勢バイパス近くの公園を二次避難先として設定し、避難目標まで誘導するイメージ動画の作成を行いました。

令和4年度には、富田地区連合自主防災隊と合同二次避難訓練を行いました。当日は雷注意報が発表されていたため、地域住民のみの避難となりましたが、生徒と残った地元防災隊員の皆さんが二次避難コースの動画を一緒に視聴するとともに地元四日市大学の鬼頭副学長の防災講話も実施しました。

今年の5月には、定時制全校生徒と富田地区の高齢者や要支援者役の地域住民を高校生がリカーや車椅子で二次避難場所まで運ぶなどの本格的な合同避難訓練を行いました。その後、津波災害時に逃げるべき方向を意識する「命の矢印」シールを学校周辺の住宅へ配布する取組を同校ボランティア同好会が実施しました。

高校生が「率先避難者」として、避難経路沿いにいる高齢者や介護を必要とする住民に対して声掛けをして避難誘導ができる姿をめざして今後の活動も計画しており、こうした取組は東日本大震災で中学生が避難を呼びかけながら高台に逃げたことで多くの命が助かった「釜石の奇跡」に続く取組であり、これからの活動の発展に期待できるものです。

「みえの防災奨励賞」4団体（団体名五十音順で記載）

【鳥羽市・学校】加茂小中学校学校運営協議会

加茂小中学校学校運営協議会は「子どもも大人も未来を担う地域の一員である」というメッセージを掲げ、コミュニティースクールディレクターが各団体の調整役となり、避難所運営訓練を実施しています。

令和4年10月に第1回目、令和5年10月に第2回目となる「加茂地区避難所運営訓練」を実施し、小中学生が班員として参加しました。訓練では子どもたちが大人と一緒に誘導、受付、健康管理、非常食の配布など各班の運営に携わりました。訓練中は子どもたちがお年寄りにいたわりの心をもって声をかける、お年寄りが子どもたちの活躍をほめる、気配りや思いやりで満たされた空間にすることで居心地の良い避難所づくりをめざしてきました。

同協議会では「がんばればできる」と自分のことを肯定的に認めることができれば、子どもたちは新たな挑戦に向かって主体的に行動することができ、地域社会の担い手となる次世代の育成につながっていくものと考え地域が一体となった取組を進めている点は、他地域でも参考になるものであり、今後の活動の発展に期待できるものです。

【多気町・自主防災組織】多気町防災ネットワークグループ

多気町防災ネットワークグループは地域の「防災意識の低さ」を課題に住民主導の防災意識向上に取り組むことを目的に結成されました。地域住民の視点から、誰もが緊急時にスムーズに避難所を開設できることをコンセプトに、社会福祉協議会と協働で「避難所開設マニュアル」を作成しました。

また、多様な主体が地域防災に関わっていく体制を整えることをめざして、住民向けワークショップ「たき防災体験」を開催し、令和5年3月には避難所開設マニュアルをもとに住民参加型でワークショップを実施し、参加者が難しかった点などの感想を話し合いました。令和5年8月には避難経路のシュミレーションや、避難所・仮設住宅での困りごとの解決方法を考えました。

今後も、「たき防災体験」を継続的に進めていくとともに、町内の中学校でも実施できるよう、関係者と調整を進めているところであり、これからの活動の発展に期待できるものです。

【伊勢市・自主防災組織】豊西まちづくりの会

豊西まちづくりの会（8自治会）は地域全体の防災活動を発展させるため、活動を開始しました。令和元年には各自治会が避難場所で連携がとれるよう、誰が見てもすぐ理解でき、使えることをコンセプトに「豊西小学校避難所運営マニュアル」の作成を開始しました。また、豊西地域特有のHUGカードを252枚作成し、併せて講習会を実施しました。

令和5年度は、豊西HUG講習会や夜間避難所開設訓練、延焼防止訓練など継続的に幅広い活動を行っています。また、備蓄食料を購入する財源がない自治会の災害時の食料とするため、休耕農地において、さつまいもの栽培を行い、収穫したさつまいもは廃校舎で保存しています。もみ殻を使用して保存するなどの工夫を行い、テスト的に約半年間保存した結果、腐敗した芋は4個のみであったことから、今後も継続してさつまいもの栽培を行っていく予定です。

これらの取組は、他地域でも参考になるものであり、今後の活動の発展に期待できるものです。

【御浜町・学校】三重県立紀南高等学校

三重県立紀南高等学校は令和3年に東日本大震災の被災地で学ぶ「三重県学校防災ボランティア事業」に同校生徒7名が参加し、3泊4日で宮城県を訪れ、津波被災施設の視察や語り部による講話を聞きました。参加した生徒は、児童や先生が震災直後すぐに裏山に避難し、全員が無事だった石巻市立門脇小学校が、震災後どこからでも見やすい大きな津波避難所への案内板を設置したことに着目し、自校の周りには小さな案内板しか設置されていないことに気づき、避難所を示す案内板、ピクトグラム設置をめざすことを目的に活動を開始しました。

地元企業や道の駅から提供いただいた協賛品で非常持出袋「防災避にゃんセット」を制作・販売し、その収益を案内板の設置費用に充てることで、今年度中に案内板ピクトグラムの完成をめざしています。

また、地元の製菓会社と防災食の共同開発に取り組み、ネーミングやパッケージデザインを同校生徒が行う予定をしています。

これらの取組は、他地域でも参考になるものであり、今後の活動の発展に期待できるものです。